

【研究課題】

後期高齢者の特性に応じた薬物治療の実態調査と安全性評価
(審査番号 2020309NI)

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学大学院医学系研究科在宅医療学講座/附属病院 老年病科
研究責任者 浜田 将太 (特任助教)
担当業務 データ解析、結果検討

【共同研究機関】

主任研究機関 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構
研究責任者 浜田 将太 (主席研究員)
担当業務 データ収集、データ解析

【研究期間】

承認日～2022年10月25日

【対象となる方】

平成27年4月1日から令和2年6月30日までのNDBデータに登録されている75歳以上の高齢者

【研究の目的】

後期高齢者に対する薬物療法を包括的に評価することによって、高齢者への適切な薬物療法の実現に向けた基礎的資料を提示するとともに、薬剤処方適正化に関連して、医療機関や薬局への受診状況、ならびに、関連した医師・薬剤師関連業務の実施状況を診療報酬から把握し、その効果を評価します。

【研究の方法】

レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDBデータ)の特別抽出データを用いて、高齢者の特性(年齢、性別、在宅/居住系施設等)に応じた薬物治療の実態を把握する研究を行います。

主な調査項目：性別、年齢、居場所(入院、在宅、特養等)、診断(ICD-10で2桁)、診断以外の健康状態(胃ろうの有無等)、処方薬、入院、死亡転帰、都道府県、薬剤費、併用薬の組み合わせ、診療行為データ(受診や入院、死亡状況の代理変数)、薬剤処方適正化に関する医師・薬剤師関連業務(薬剤総合評価調整加算や在宅患者訪問薬剤管理指導料など)の算定状況ならびにその前後における薬剤処方の変化

この研究は、東京大学医学部倫理委員会および医療経済研究機構倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。

特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

NDB データは、厚生労働省（及び業務委託先）にて、個人をたどれない形に匿名化処理が施されています。データ保管・解析場所は医療経済研究機構・専用室（NDB 解析用室）で行われます。東京大学の研究者が NDB データを取り扱う場合は上記施設を訪問し、医療経済研究機構の担当者の監視の下、データ解析を行います。東京大学には全データあるいはデータの一部の移管も行いません。

この研究に関する費用は、令和2年度 科研費若手研究 「地域包括ケアの実践・発展に向けた地域在住高齢者の不適切な多剤処方の適正化」（代表者名 浜田将太）から支出されています。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

2021 年 1 月 21 日

【問い合わせ先】

連絡担当者：浜田将太（在宅医療学講座）服部ゆかり（老年病科）
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科・医学部 在宅医療学講座
東京大学医学部附属病院 老年病科
電話：03-5800-9542